

解熱鎮痛薬

はれやかs

第2類医薬品

⚠ 使用上の注意

❌ してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる)

1. 次の人は服用しないこと

- (1) 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと

他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗り物酔い薬

3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと

(眠気があらわれることがある。)

4. 服用時は飲酒しないこと

5. 長期連用しないこと



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師に相談すること

- (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
- (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3) 水痘（水ぼうそう）若しくはインフルエンザににかかっている又はその疑いのある乳・幼・小児（15歳未満）。
- (4) 高齢者
- (5) 本人又は家族がアレルギー体質の人。
- (6) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (7) 次の診断を受けた人。

心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師又は薬剤師に相談すること

(1) 服用後、次の症状があらわれた場合

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消 化 器	悪心・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症 状
シ ョ ッ ク (アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、 顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗、息苦し さ等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) 中毒性表皮壊死症 (ライエル症候群)	高熱を伴って、発疹・発赤、火傷様の水ぶくれ等の激し い症状が、全身の皮ふ、口や目の粘膜にあらわれる。
肝 機 能 障 害	全身のだるさ、黄疸（皮ふや白目が黄色くなる）等があら われる。
ぜ ん そ く	

(2) 5～6回服用しても症状がよくならない場合

成分及び分量 1 日量(2 包)中

アセトアミノフェン……………600mg

エテンザミド……………1,000mg

アリルイソプロピルアセチル尿素……………100mg

無水カフェイン…………… 80mg

添加物としてカルメロースカルシウム、カンゾウ末、白糖、果糖、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム、アマチャ末、*d*-ボルネオール、*l*-メントールを含有する。

効能又は効果

- 1) 頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛（生理痛）・外傷痛の鎮痛
- 2) 悪寒・発熱時の解熱

用法及び用量

1 日 2 回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用してください。ただし、服用間隔は 6 時間以上おいてください。

15 歳以上	1 回	1 包
11 歳以上 15 歳未満	1 回	2 / 3 包
7 歳以上 11 歳未満	1 回	1 / 2 包
3 歳以上 7 歳未満	1 回	1 / 3 包
1 歳以上 3 歳未満	1 回	1 / 4 包
1 歳未満		服用しないこと

〈用法及び用量に関連する注意〉

- (1) 用法及び用量を厳守してください。
- (2) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。

保管及び取扱い上の注意

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- (2) 小児の手の届かない所に保管してください。
- (3) 他の容器に入れ替えないでください。（誤用の原因になったり品質が変わります。）
- (4) 1 包を分割した残りを服用する場合には、袋の口を折り返して保管し、2 日以内に服用してください。
- (5) 配置期限を過ぎた製品は服用しないでください。

お問い合わせ先

大協薬品工業株式会社 お客様相談窓口 電話：076-479-1313(土、日、祝日を除く)
受付時間 9:00～17:00

副作用被害救済制度のお問い合わせ先

(独)医薬品医療機器総合機構 <http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai.html>
電話：0120-149-931 又は 03-3506-9411

製造販売元



大協薬品工業株式会社

富山市水橋畠等173